

大阪大学 金融・保険研究センター ミニ・レクチャーシリーズ講義内容

日時・時限		テーマ	講師	概要
10/26	3	金融情勢について～金融規制の方針とその背景を中心に	磯野	9月4・5日にG20が開催され『金融システムの強化に向けたさらなる取組に関する宣言』がなされている。※1この宣言の中のテーマを縦軸に、新規制が必要とされる背景及び金融情勢について講義する。また、フォワードルッキングのための情報取得の手法を紹介する。
	4	デリバティブ金融商品	荒川	実務におけるデリバティブの活用方法を概説する。デリバティブは単体でも取引されるが、仕組債等デリバティブ内包商品も多い。実務の目線から商品化のポイントやその評価方法を解説する。
11/9	3	銀行ALM (Asset Liability Management)	荒川	銀行は預金及び貸出による利息収支が収益の大半をしめるが、これは金利変動により影響を受ける。実務における金利変動リスクの管理方法を紹介するとともに、最近の先進的な取り組みについて解説する。
	4	流動性預金モデルの現状と今後の展望	上武	銀行ALMにおいて、資産の管理手法については従来から研究がなされているが、負債の管理手法については重要性が高いにもかかわらず発展途上である。特に預金の約半分を占める流動性預金をどのようにモデル化するかが課題となっている。講義では、現在一般的に用いられているモデルや開発途上のモデルを紹介する。
11/16	3	証券化商品	荒川	住宅ローン、商業用不動産などを対象とした証券化商品が多く発行されている。証券化商品のメリットとその仕組みを説明する。またサブプライム問題で発覚した様々な問題点についても解説する。
	4	株式ポートフォリオの理論・実務 (年金資産運用)	南	年金資産運用における株式運用を概観する。株式バリュエーションの基礎やファクター分析に加え、ファクターティルトポートフォリオのポートフォリオ構築手法や各種トピックス (アクティブ運用の基本法則・分離定理) を説明する。
11/30	3	スコアリングモデル	岡田	スコアリングモデルは、融資審査や格付けなど中小企業の信用リスク計測に使用され、業務効率化に大きな役割を果たしている。本セミナーでは統計・ORの手法によるモデル構築の概要、実務での使用例などについて解説を行う。
	4	信用リスク管理	阿部	信用リスク管理とリスク指標の一つとしての信用VaRの理解を目的とする。当社の計測手法を紹介するとともに、様々なサンプルデータを用いた計測例により、特性を示す。また、信用VaRの限界と、実務上の対応も紹介する。

12/7	3	市場リスク管理	荒川	金利・為替等マーケットの変動によるリスクを Value at Risk(VaR)により計測している。実務での計測方法やファットテイル等の問題点、今般の金融危機を踏まえた高度化への取組みを紹介する。
	4	統合リスク管理	松井	銀行経営の健全性、限られた経営資源の中で収益の極大化を目的に「統合リスク管理」と呼ばれるリスク管理手法を導入している。統合リスク管理の枠組みとその実務を解説する。

※1 : http://www.mof.go.jp/jouhou/kokkin/g20_210905_2.pdf

参加者は一読してください。

<講師>

りそなホールディングス 取締役

磯野薫

りそな銀行 執行役員

松井 浩一

同 リスク統括部 金融テクノロジーグループ グループリーダー

荒川 研一

同 リスク統括部 リスク統括グループ クオンツアナリスト

阿部 達生（一橋大学国際企業戦略研究科修士課程修了）

同 リスク統括部 金融テクノロジーグループ

岡田 洋平（慶応大学経済学研究科修士課程修了、中央大学理工学研究科修了）

同 リスク統括部 金融テクノロジーグループ

上武 治紀（大阪大学工学研究科修士課程修了、慶応大学理工学研究科修了）

同 アセットマネジメント部 投資技術開発グループ チーフクオンツアナリスト

南 聖治（東京工業大学理工学研究科修士課程修了）